

平成26年度 福祉一行詩コンクール入賞作品

「福祉」をテーマにした一行詩の募集に、たくさんのご応募ありがとうございました。
応募総数1485点の中から入賞した作品をご紹介します。

原文のまま掲載

特選

お母さんはいつも席をゆずるよね。
今日は、わたしもゆずれたよ。

はせがわ ひかる(市之倉小学校 4年)

電車の中「どうぞ。」が言えなかったこの私。
だから、さりげなく立ってみた。

にしだ ももか
西田 百花(南ヶ丘中学校 2年)

入選

祖母と買い物、車いすを押す手に力が入る。
安全走行心がけ、祖母の笑顔があふれ出す。

たつ まい
達 麻愛(精華小学校 5年)

「わたしに何かお手伝いできることはありませんか。」
もちたいな、ばずかしがらずに声をかける勇氣。

いとう まなや
伊藤 愛矢(精華小学校 5年)

点字に手話は、音はないけど、
やさしくてあたたかい言葉だよ。

かつ えみな
勝 笑菜(池田小学校 5年)

電車でおばあちゃんに席をゆずったよ。
ドキドキしたけど勇氣を出したら笑顔が返ってきたよ。

きむら ひとか
木村 仁香(根本小学校 5年)

「ありがとう」その一言で、
ちぢまる距離と、広がる笑顔。

いとう あや
伊藤 彩(南ヶ丘中学校 3年)

「点字ブロック」の上は歩かない。
それが私の思いやり。

ときだ
時田 ほのか(南ヶ丘中学校 2年)

お婆ちゃん、何度も何度も同じ話をするんだね。
でもねうなずいて聞いているよ。だって嬉しそうに話すから。

みずの えみり
水野 恵美理(笠原中学校 1年)

自販機が押せないで困っているおばあさんを手伝った。
「お礼を何か」その人の笑顔がお礼だと思った。

おぎそ さな
小木 曾 沙奈(小泉中学校 1年)

白い杖、ベル鳴るホームで
腕を組み合せて電車乗る。

やすい じゅん
安井 淳(一般)



佳作

耳の不自由な人に
店の人が呼んでいるのを教えた。
手話でありがとうと言って、うれしかった。

みずの かんた
水野 幹太(精華小学校 5年)

ばあばがたつとき手をもってあげたよ。
ばあばの手は、あったかかったよ。
わたしの手もあったかくなったよ。

あいち
愛知な(精華小学校 1年)

しんばいなくていいよ
あなたは私の友達だよ
わたしの宝物だもんせかい中のだれよりも

はやし しょうか
林 佑華(昭和小学校 6年)

赤ちゃんからお年よりまで、
みんながふつうにくらせるしあわせ
それが「ふくし」なんだって

いとう りか
伊藤 里華(昭和小学校 6年)

ひいおばあちゃんののった車いすをおして
公園に行ったよ。同じ目の高さでみたバラは
すごくきれいだったよ。

やました きすけ
山下 颯助(市之倉小学校 3年)

スーパーの帰りおばあちゃんのものつが
おもそうだった。ほかかたはうもってあげたら
重さが半分になるね。

かとう けいと
加藤 圭都(根本小学校 3年)

おばあちゃんに歩幅をあわせて
歩く思いやり

ほしき とう
星崎 瑠菜(笠原中学校 3年)

おばあちゃんとかできない秘密の話。
ゲームやるよりおもしろい!

たじみ すずか
多治見 純花(笠原中学校 3年)

耳がふじゆうな人にゆっくりと
おもしろい話をしたらわらってくれた。
うれしかった。

みずの ひなと
水野 凷人(笠原中学校 1年)

「ありがとう」、その一言で
私は次もがなされる。

かわ たかみ
三輪 拓未(南ヶ丘中学校 1年)

人間ってね人をいじめるために
生まれてきたんじゃない。
人を支えるために生まれてきた。

てらさわ あゆか
寺沢 歩佳(北陵中学校 1年)

困っていたらさしだす手。
その手はきっと思いやり。
そうしてつながる地域の輪。

ほしの ひびき
星野 響希(多治見西高等学校附属中学校 1年)

手を差し伸べるとニコッとしてくれる。
私も自然と笑顔になる。

ただ あんな
多田 杏菜(多治見西高校 2年)

